

# 江北の四季

令和2年

12月19日

第38号



12月17日 湖北の地も雪化粧(川道より伊吹山を望む)



枯れ尾花(ススキの穂)

## ○冬至

十二月二十一日は冬至です。二十四節気では小寒の来年一月五日までを指します。

地球が太陽の周りを回る公転面に対して、地球の自転軸(地軸)は $23.5^\circ$ 傾いています。この傾きが太陽の方に向いていると昼が長く暑くなり、反対に太陽の方とは逆の方を向いていると昼が短く寒くなります。冬至とは、北半球においてもっとも昼が短い日のことです。実際に一番寒くなるのは一ヶ月ほど遅れます。月の動きを元にした太陰暦は季節とずれやすいため、太陽の動き(夏至・冬至)を元にした二十四節気が併用されてきました。

冬至の別名は「陽来復(いちようらいふく)の日」です。冬至は太陽の力が一番弱まった日であり、この日を境に再び力が甦ってくるという意味です。ということ、太陽暦では冬至の後に新しい年のスタート一月一日を持ってきています。

また、キリストの誕生日が十二月二十五日になっているのもこの冬至が関係しています。冬至が過ぎると太陽が再び力を取り戻し、その後次第に生命あふれる春へと向かうため、神に感謝し盛大に祭りを行っていました。キリストの誕生日は不明でしたが、キリスト教が広まりだした四世紀頃に、太陽の復活にキリストの復活を重ねて、この祭りの頃をキリストの誕生日に定めたようです。当時のキリ

スト教の関係者は知恵者ですね。本来は太陽の復活祭が、今日では完全にキリストの誕生祝い、つまりクリスマスになっていきます。

私はキリスト教徒ではありませんが、冬至の後の太陽の復活を喜び、新しい年がいい年であるよう願って、おいしい料理とケーキを食べ、メリークリスマス！

仏壇に 水仙活けし 冬至かな

高浜虚子

日本の 冬至も梅の 咲きにけり

小林一茶

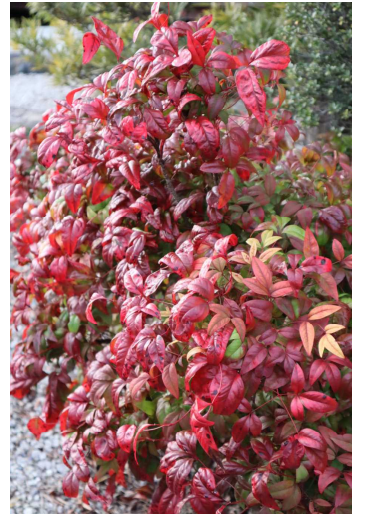
枇杷の木に 枇杷の花咲く 冬至なる

北原白秋



蜜柑(蜜柑)

○雪が畑一面を覆うなり、ヒヨドリが甲高い声を発して、ミカンの実を食い散らしました。しかも網の上から。彼らも生きるのに必死です。



寒さで一段と色濃くなったオクナテン(お多福南天)

○冬至は一陽来復の日で、この日を境に運が上向くと言われます。そこで、冬至には「ん」のつく物を食べると運が向いてくる、となります。これらを冬至の七種とも言うようになります。

なんきん(南京) カボチャのこと)

れんこん(蓮根)

にんじん(人参)

ぎんなん(銀杏)

きんかん(金柑)

かんてん(寒天)

うどん(饅頭) うどんのこと)

運盛りです。また、小豆の赤が邪気を払うということ、小豆を入れた冬至粥もいそうです。

そうそう、食べ物ではありませんが、忘れてならないのが、柚子湯です。江戸時代に、「冬至」を「湯治」にかけ、「柚子」を「融通」が利く(体の融通が利く=健康)にかけて、お風呂屋さんが始めたそうです。柚子湯には

血行を促進したり、体を温めて風邪を予防したり、さらにはビタミンCによる美肌効果や芳香によるリラククス効果もあるようです。ホッカホッカのカボチャで運をつけ、温かい柚子湯で来年の無病息災を願いたいものです。

蛇足ですが、冬至の日(その前後数週間)は、伊勢神宮内宮前の宇治橋の大鳥居中央から朝日の昇るのが見られるそうです。残念ですがコロナ禍が席卷している中、今年は参拝も難しいですね。



カラスウリ(烏瓜)の実と種

○カラスウリの種を取り出してみました。種は大黒さんの顔、あるいは打ち出の小槌に似ています。また、取り出したときは黒色でしたが、乾いてきたら写真のような色となりました。もう少し乾燥すると黄褐色(金色)になるようです。そんなところから、財布に入れておくとお金が貯まると言われています。早速、財布の隅に入れて……、大黒さん!

○忘年の交わり

普通なら忘年会シーズンですが、残念ながら今年の状況ではとても無理です。忘年とは、本来、一年のいやなことを忘れるという意味ではありません。年齢を忘れるの意味で、年齢の差に関係なく、老若が交際することをいいます。花展の打ち上げも、社中の忘年会もすることができなくなりました。寂しい十二月です。



立華(水仙 著 寒菊)

○池坊の立華には十九の伝花があり、一種の花材で生けるものに、松、桜、燕子花、蓮、菊、紅葉、そして水仙があります。Hさんから水仙をいただいたので、今回は水仙一色(いっしき)の稽古です。やはり伝花にはその深みがあります。生け終えたときの満足感が違います。仏具のお磨きは済んでいますが、お取り越し(報恩講)が未だできていないので、早速、仏壇横の床に置いて、準備完了です。昔、子供の頃はお取り越しは年末の大きな家の行事で、自前の田楽が一番の思い出です。

